



みんなの力でみんなの幸せ

s a w a r a b i

さわらび

7

July
2007
vol.411

医学
論文

「敗血症患者を救命する特効薬の開発」

先端医療担当 副院長 / 名古屋市立大学医学部名誉教授
福祉村病院 長寿医学研究所担当

岡田 秀親

特集

高齢障害者の現状と家族の不安



「敗血症患者を救命する 特效薬の開発」



福祉村病院
先端医療担当
長寿医学研究所担当
名古屋市長 岡田 秀親
名古屋大学医学部 / 名誉教授

細菌などの微生物が感染して体内に侵入すると、体の体液（血液の液体成分の血漿など）に存在する自然抗体や補体が反応して、生体防御反応を開始します。進入異物に補体が反応して、補体成分（C3など）が表面に反応して沈着すると、白血球などのC3レセプターに捕らえられて、貪食されやすくなります。これをオプソニン化反応と言います。

細菌などをオプソニン化することにより、白血球に細菌が速やかに捕らえられて、貪食処理されて、体内で細菌が増えるのを防ぐことができます。オプソニン化反応を起こす補体反応は、種々の補体成分の連続した酵素反応で、その反応の過程で補体成分の分解産物が形成されます。C3成分から出るC3a、C5成分から出るC5a、C5成分から出るC5bなどと呼ばれます。アナフィラトキシンは血管の透過性を高めると共に、血管内皮細胞を刺激して、血流の亢進と血管から血漿成分を局所に漏出さ



せます。また、白血球を局所に呼び寄せる作用（走化性あるいはケモタクシスと呼ばれる現象）があります。その結果、細菌が侵入した場所が赤く（血液の流れが増すため）なって腫れ上がる（血漿成分が漏出して溜まるため）と共に、白血球もそこに集まって、いわゆるオデキになります。集まった白血球がオプソニン化された細菌を貪食して、菌を殺して生体防御反応が行われるため、菌を貪食した白血球が膿となって排出されて、速やかに治癒に向かいます。

このような生体防御反応では、補体反応が中心的役割を果たしますが、その反応過程の中でも、アナフィラトキシンの役割は炎症病巣を形成するために極めて重要です。アナフィラトキシンの中でも、C3aは最も活性が強く、微量で大きな仕事をする重要な因子です。このC3aは炎症反応を開始する強力な因子なので、その働きが強くなりすぎると、炎症反応が起りすぎてしまいます。それを防ぐために、C3aを不活化する酵素が血漿中に用意されています。C3aの端にあるアルギニンを取り除く酵素で、カルボキシペプチダーゼB（CPB）と命名した酵素です。アルギニンが取り除かれたC3aは、アナフィラトキシンとして働きなくなるので、CPBが過剰炎症反応を制御しているといえます。

凝固を防いだり、ステロイドでショック病態を抑えたり、炎症性酵素反応を押さえる阻害剤を投与する対症療法でしのご以外に方法がありません。

その病態の元凶は、過剰に生成されるCSaと考えられ、CSaに反応する抗体を作用させることで、治療効果が動物実験で認められています。われわれは、抗体の代わりに反応するペプチドを設計する方法を開発していますので、この技術を用いて、CSaに働いてCSaの機能を抑えるペプチドを新たに創りました。CSaの機能を阻害できることが確認でき、ラットに注射すると、補体過剰反応で起こるショック死を防ぐ作用も認められました。



ここで、サルでの治療実験を行ってみました。人の敗血症病態のモデルとして、敗血症の起因子として働く細菌内毒素(LPS)の致死量(体重1kgあたり4mg)をカナクイザルに投与すると、翌日には死亡してしまいます。このサルにLPSを投与して、炎症病態が起こり始めた30分後からCSa阻害ペプチドを静脈内に投与する治療実験を開始して、4時間ほど治療を続け、そのあとサルをケージに戻して観察を行ったところ、治療をしなかったサルは翌日には死亡してしまいました。治療した7頭のサルの全てが翌日には元気になり、餌も食べるようになっていました。

予想以上の治療効果が認められたので、人でも劇的な効果を発揮するかと考えています。それを確かめるには、CSa阻害ペプチドで敗血症の患者を治療して、効果を調べる必要があります。しかし、人での治療実験を行うためには、CSa阻害ペプチドを厳密なGMP規格で作成する必要があります。GMP規格のペプチド

でないこと、倫理委員会で治療実験の承認を得ることができません。

しかし、GMP規格でCSa阻害ペプチドを作成してもらうためには、10グラムを合成してもらうだけで960万円の見積もりです。1000グラムであれば2400万円のとことです。

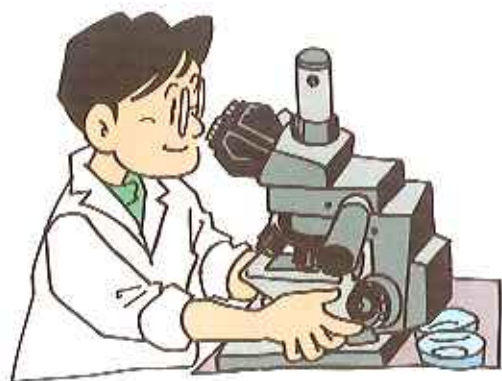
その資金をどうするかが日下の大きな問題です。この開発研究は、大学発ベンチャー企業である株式会社福社村病院長寿医学研究所で行っています。

公的資金からの助成を求めて申請書は提出していますが、旨く認められるかどうかは不明です。米国では、社会に対する貢献度の高い事業に対しては、エンジェル投資家が応援投資をしてくれるケースが多いようですが、日本では難しそうです。

サルで著効を示しているのです。患者さんの治療でも劇的な効果を発揮すると期待していますが、敗血症治療の特効薬として成功すれば、毎年

数十万人の方々を救えることになるので、極めて大きな社会貢献ができます。

何とか開発資金を確保して、GMP規格のCSa阻害ペプチドを作成し、福社村病院でも、希望していただけの患者さんの治療に活用したいとの夢を持っています。名古屋市立大学および京都大学でも、倫理委員会のおよび申請して、実験治療をトランスレーショナルリサーチとしての実施を目指したいと考えています。





◎2007年6月14日講義

「目で見る脳の疾患」

(付) 神経細胞の生死の問題)

長寿医学研究所 所長 堀映

脳の病気は、あるものは画像を通して目で見て診断や治療に役立たせることができますが、病気の脳そのものを眼で見て調べることは、一部の専門家の領域でなされていることです。それでも、一般の人に見ていただいて、いろいろと考えるもとでとすることもできるのです。

一 脳の循環障害 脳は四本の主要な動脈により血液を供給されています。一時的な心活動や呼吸の停止などで脳全体が酸素不足になり、後遺症を残すのを無(低)酸素脳症といひ、血管の一部の閉塞や動脈の痙攣

などにより脳の一部に障害を生じるのを脳梗塞といいます。それを写真や模式図で見ました。一定時間梗塞が持続すると、脳は障害を受け、その部分の細胞は死にいたり、脳組織は破壊されたり、あるいは修復されたりします。

二 脳出血 何らかの原因で脳の血管が破綻をきたすと、脳出血を生じます。原因はさまざまですが、脳動脈瘤を例にとり、破綻した動脈瘤や、脳外科で治療を受けた動脈瘤の実像を講義の中では見て頂きました。

三 狂牛病という言葉を聞いたことがありますね。羊の脳の病気スクラビーが牧場の牛にうつされ、それが人に対して病原となってクロイツフェルト・ヤコブ病となります。それ以前から知られている同じ病気との異同を顕微鏡写真で比べてみました。また、アルツハイマー病はよく知られるようになった病気で臨床診断もかなりの精度でできるようになりましたが、確定診断は顕微鏡所見が決

定的です。これらの病気でも神経細胞の死が病状を形成するものになります。

四 脳に形成異常があると、生前診断が可能な今日、生まれる前にその生命が摘まれてしまうことさえありますが、そうした子供たちは本当に生まれてくる値打ちがないものでしょうか？命の大切さと、障害を持った人たちのひととしての社会生活も考えてみて下さい。

五 脳の病気では神経細胞の死が問題ですが、私が実施した、神経細胞が生き延びる条件についての研究結果を披露します。結論は、神経細胞はよきパートナーにめぐり合えてこそ生きつづけることができるということです。この結果を日常の社会生活とてらしあわせてみると、(宇宙でも、顕微鏡下の世界でもおなじで)、みんながあつてこそ自分が生きてゆける世の中という思いがします。

「転倒予防」

◎2007年6月28日講義

さわらび地域包括支援センター
軽費老人ホーム若菜荘

最近転ぶようになったと感じる方はいませんか？普段から体操や運動、散歩などをして足腰には自信のある方もお見えでしょうが、年とともに確実に筋力は衰えます。また、高齢者が「寝たきり」となるきっかけの大きな原因の一つである転倒による骨折を予防し、少しでも人の手を借りなくて生活できるように、今から自分でできることをがんばって続けてゆくことで、一日でも長く元気に暮らすことができると思います。

転倒の原因は「つまずいた・バランスを崩した・滑った」などが多いようです。実際に骨を折った人に話を聞くと、「もつちよつと足が上がっていたらつまずかなかった」「段になつていたのがわからなかった」などなのです。ちよつとした注意で転倒骨折を防ぐこともできます。

自分の出来ることみんなの為に

堀美代子さん

ケアハウス「カサ デ ローザ」の入居者の堀美代子さんは、福祉村病院の作業室で週に3回程度、福祉村病院に入院されている方と一緒に色々な作業をし、入院患者さんへのサポートをして下さっています。この活動を始めることになったきっかけや思いを伺ってみました。

「自分自身が病院へ入院をした時に動けなかった為、病室での暮らしが大変辛かったです。只、理学療法士の方々とリハビリ訓練を行う中で、少しずつだけでも動くことが出来るようになり、「ひよつとしたら元のように戻れるかも」と気持ちを前向きに持つことが出来るようになり、入院生活にも張りを持つことが出来るようになりました。リハビリが終了した後も作業室で色々な作業を行い、「元気になることが出来て本当に良かったです。そして今はすっかり元気になってケアハウスで自由に生

活が出来るまでになりました。

「元気になった今、何かできることは無いかと考えたときに、私自身は元気をもらった場所である福祉村病院で、恩返しのためにも他の入院患者さんと一緒に作業することで、今入院されている方が少しでも楽しい時間を過ごしていただければと思っています。」

お話しの中で何か「お手伝いではないのです。一緒に楽しませてもらっています。」とおっしゃっていました。人の為になることを行うことは大変な事です。自分の出来ることを謙虚に行っている姿には頭が下がります。また、堀さんの温和で謙虚な人柄に触れることが出来たように思います。これからも楽しみながら良い時間を過ごしてほしいと思います。

(東郡)



「第二さわらび荘家族会」の活動・支援について

第二さわらび荘の家族会が活動を始めて3年が経ちます。この間家族会の皆様には積極的に多くの活動にご協力いただいています。月に2回実施される「家族会デー」ではボラnteia活動としてオムツや洗濯物をたたんで頂いています。また、さわらび会の文化祭や親子福祉体験等の行事の際にも受入や行事説明ボランティア等を引き受けて頂いています。さらに昨年は施設と共催の夏祭りを実施し、大変お世話になってます。

さて今年4月に家族会総会及び役員会が行なわれ、石川県や三重県で地震が発生し、各地で震災が起きてくる状況等を考慮して、第二さわらび荘の防災活動に活用してもらいたいとの事で、非常食(20人分×3日分のべ60人分、12万円分)とテント(非常用・行事用、30万円)のご寄付も頂けることとなりました。

家族の方からも「家族会だからこそ出来るような支援を行うことで、人所しているお年寄りがより安心して生活できるようにになるので、預けている家族としても安心する事が出来るので大変ありがたく、そこに活動の意義がある。」との言葉を頂きました。

第二さわらび荘の家族会の皆様には、他に類を見ない程素晴らしい活動をして頂いています。第二さわらび荘の運営を側面的にサポートするだけでなく、利用者の為に施設と家族とで、車の両輪の様に援助活動して頂いています。

家族の皆様と、今後も緊密な信頼関係を築いていけるよう、努めてゆきたいと思えます。

(東郡)



私たちの生活する福祉村を より安全で住みやすい環境へ

■ 現実になった、二つの希望

さわらび会の職員は一年に一回、山本理事長への要望・提案書を提出しています。これは職員が「さわらび会をよりよくしたい」と自らの提案をするだけでなく、病院や各施設を利用するみなさんの声を理事長に届ける貴重な機会となっています。

そして、この度この提案が現実となり、福祉村バス停に待合所が増設されました。これは「待合所に人がいっぱい、風の強い日や雨の日には困ってしまう」という利用者の声からの提案が実ったものです。バス停には二つの待合所が並び、福祉村を利用される障害者や高齢者の方々に、より優しい環境となりました。また、福祉村周辺地域のみならずこのバス停を利用されており、交流の輪が広がっています。

また、バス停に就いて希望通りの歩道整備が行われました。車いすの

方や足の不自由な方も通りやすいように歩道の凸凹を平らにし、さらに安全性を高めるためにガードレールを設置。誰もが安心して、のんびり散歩を楽しめるようになりました。

この福祉村は利用者のみなさん自身作り上げてきたものであり、これからもみなさんの声を大切にし、より安全に、より安心して生活を送ることができるよう、努めてまいります。

(右田)



働く人々に学ぶ会に参加して

身体障害者福祉施設 珠露荘

副施設長 田中力

豊橋市立高師台中学校では2年生を対象に、キャリア教育の一環として、各分野で活躍されている方々を講師として招き、実際の仕事の内容や働く事の意義を生徒に伝え、職業観、勤労観を育むことを目的とした「働く人々に学ぶ会」が開催されました。

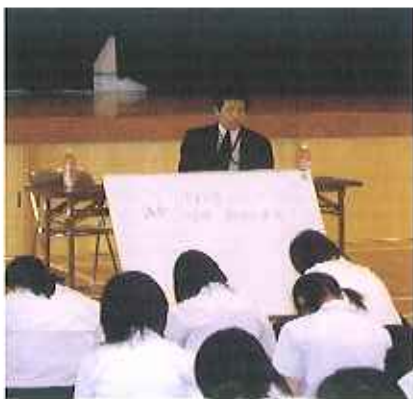
私もその講師の一人として福祉の現場について講話をさせていただきました。

「福祉村を知っていますか？」と聞くと、ほぼ全員の手が挙がり、福祉村が地域に認識されていることを嬉しく思いました。今回は「福祉の仕事について」という題材のため、

「福祉の役割」、「働く人々の役割」をお話しさせていただきました。特に施設で働く人の職種や資格、その中でも現場を支える介護士の業務を中心に話をさせていただきました。介護士は直接利用者に接し、入浴、

食事、排泄など利用者にとって、なくてはならない職種であり、将来の進路の選択肢の一つとして少しでも関心を持ってくれればと思ったからです。また、生徒の皆さんは、普段不自由なく何でもできると思いがちですが、ハンディを持った方々がいろいろなのの手助けが必要なのと同じように、一人では生きてゆけないことに気づいてほしいとの思いなども話させていただきました。

最後に、生徒からの「福祉に携わる人に、一番大切なのは何ですか？」という質問に、「それは思いやりです。みんなも家族や友人に対して思いやりを持って接してほしい。」と話し、講話を終えました。



●地域と歩むさわらび会

弥生町総合防災訓練に参加

6月10日(日)、「自分たちの町は自分たちで守る」を目標に、大地震を想定した弥生町総合防災訓練が行われました。弥生町には、知的障害を持つ方が共同生活をするさわらび会のグループホームが3カ所あります。今回弥生町の住民として、町内の方たちと一緒に防災について学び、災害が起こった時の対応を身につけることが出来ればと利用者10名、職員3名で参加させて頂きました。

訓練の内容は①避難訓練 ②防災用具・救助用具等の説明 ③阪神淡路大震災のビデオ鑑賞 ④救助訓練・心肺蘇生(AEDを含む) ⑤耐震車体験と充実したものでした。また、消防署の職員による講話があり、豊橋市内には消防車が8台しかなく、災害時には消防車がすぐ駆けつける事が難しい。大事なものは、自分の身は自分で守る」「隣近所との助け合い、支え合いが大切だ」と強くお話し



されました。

終了後、利用者の方から「私たちもできることがたくさんあったよ」

「近くの人に声を掛けるといいね」などの声がありました。同じ町内の方たちと一緒に学び感じた事が何よりの収穫だったと思います。

とっさの行動が苦手な利用者のみなさんが災害時の混乱を少しでも減らせるよう、また、地域の「員としての自覚を持ち、これからもこのような機会には積極的に参加してゆこうと思います」

(久保川)

海岸清掃で高校生と交流

6月8日(金)、伊古部海岸表浜にて、豊橋南高校の生徒および先生方と海岸清掃を行いました。この海岸清掃は、高校生とのふれあいを通し、地域との交流を深めていくことや、海岸のクリーン活動で環境の大切さを覚えていくことを目的としています。当日は約30名が豊橋南高校から参加され、さわらび会からはあかね荘、グループホーム、在宅障害者の方々10名が参加させて頂きました。

高校生の中には知的障害を持たれた方と接するのは初めてという方もあり、最初はどう接して良いかわからず距離を置いたり、少し不安げにしている姿も見受けられました。しかし、支援者も一緒に作業に参加することで、お互いどのようなコミュニケーションをとればいいのか分かってきたようで、楽しく清掃し、「障害を持っていてからといっても普通にみんなと接する様でいいですね」



と生徒さんからうれしい言葉を頂きました。短い時間ではありましたが、最後は「また会いたいです」と声をかけてくれる方もあり、お互いにとっても良い表情を見ることができました。

障害者への理解が若い方にも広がるよう、これからも様々な地域行事に参加していきたいです。また同時にボランティアの育成を推進し、さらに地域とふれあう機会が増えていくと良いと思っております。(鈴木)

65才以上の高齢障害者の

福祉施策

はじめに

障害者ももちろん健常者と同様に年をとり、お年寄りになって行きます。65歳以上で介護保険制度の適用される年齢になった障害者の福祉施策はどのようなになっているのでしょうか？

一昔前の様に障害者の施策が「施設福祉」中心の頃にはあまり話題に出なかった問題ですが、近年の「在宅福祉」の流れの中で、高齢障害者の支援について「介護保険制度」を適用するのか？それとも「障害福祉サービス」を利用するのか？というような問題が発生しています。今回の特集ではこの問題について考えてみたいと思います。

介護保険と障害施策の

適用関係

この問題を整理するため、平成19年3月に厚生労働省より「障害者自立支援法に基づく自立支援給付と介護保険制度との適用関係等について」

という通知が出されています。それを簡単に整理すると

①入所型施設について

障害者入所施設（さわらび会では珠藻荘・あかね荘）は介護保険に相当するサービスが提供されているという理由から、「介護保険適用除外施設」とされます。

具体的に言えば、入所中に65歳になっても、その施設を介護保険制度を使わずに利用が可能という事です。ただし、退所した場合にはすみやかに要介護認定を行い、介護保険の対象者となります。

②在宅サービスについて

65歳以上になれば、要介護認定を受け、介護保険によるサービスを利用する事が出来ます。

しかし、一つ問題点があります。

介護保険優先の原則により、介護保険で提供出来るサービスについては、原則、介護保険を適用しなくてはならないということです。つまり「ホームヘルプ」「短期入所」等という介護保険と障害者福祉サービスに共通

するサービスについては、原則的に介護保険でのサービスを利用することになり、時間数等が不足する場合には、障害者福祉サービスでそれを補うという事になります。

そして、就労移行支援や就労継続支援など、介護保険にない障害特有の福祉サービスについては、そのまま利用は可能になります。

概ね次のサービスは介護保険給付が優先します。

- (1) 居宅介護、短期入所等
- (2) 訪問入浴サービス
- (3) 補装具費の給付（二部の用具）
- (4) 日常生活用具の給付
（施設生活支援事業）
- (5) 住宅設備改良費助成

福祉の現場では

前述のような状況により、在宅の障害者で障害者用の「障害程度区分認定調査」を経てホームヘルプなどの福祉サービスを利用している方が、65歳になると介護保険の「要介護認定」を求められます。

【問題点1】認定方法の違い

「要介護認定」の調査項目は「障害程度区分認定調査」より調査項目が少なく、障害者（特に知的・精神）にとつては大変に軽い判定が出てしまいがち、その人に十分な量の福祉サービスを確認する事が難しい場合があります。不足する部分を障害福祉サービスで補う場合には、行政にその理由を説明しなければならず、時間確保が難しい場合が出てきます。

そして介護保険を使用して介護保険のヘルパーや短期入所を利用することになります。

【問題点2】専門性の違い

同じ「ホームヘルプ」「短期入所」という言葉でも、高齢者と障害者では違った専門知識が必要となり、安心出来るサービスを受けられなくなる場合も出てきます。今まで慣れたヘルパーさんや短期入所で慣れていた施設を利用出来なくなることもあります。

また、もう一つ大切な問題点として、一人の高齢障害者に対して、介

護保険と障害福祉サービスの多くの支援者が入り交じり、障害者本人や家族は「一体誰に何を相談すればいいのか？」というとまどいを生じさせてしまうことも多々あります。

知的・精神障害者にとって

【生活の場】

身体的なハンデのない知的・精神障害者にとって、住まいについての選択肢は、身体に障害のある方に比べ、65歳以上になっても入所施設やグループホーム、自宅など多くあるのですが、若い人達と毎日の日課、生活リズム、食生活等があわなくなってきたりします。そこで、より落ち着いた暮らせる環境を求め、軽費老人ホームなどを選択する方々もいます。現にさわらび会でも一般の生活が自立している高齢障害者の場合、グループホームから若菜荘（軽費老人ホーム）へ移り住むケースが増えています。また、在宅での生活が難しくなった障害者本人とご家族が、なるべく近くで生活できる環境

を求めて、障害をお持ちの方はあかね荘や珠藻荘で生活し、親は若菜荘で生活するといったケースもあります。中には、親子で若菜荘に暮らし、自立している人もいます。そして、自立した生活が難しくなった場合には、同じ敷地内にある別の施設や病院などに移り住んでゆきます。

【福祉サービス】

自閉的な傾向、多動、てんかん等の専門的な支援が必要で、環境の変化に対応しにくい知的・精神障害者にとって、その特有の知識、経験の不足する介護保険制度のスタッフで十分に安全性が確保出来るのでしょうか？

逆に高齢者特有の知識の不足する障害福祉スタッフでいつまでもその高齢障害者を同じ環境でサポートし続けられるのでしょうか？という問題点があると思われれます。

身体障害者にとって

身体障害でも、視覚障害、聴覚・平衡機能障害、肢体不自由、内部障害等、それぞれの障害によって事情は異なります。ただ、要介護認定の問題では、特に視覚障害、聴覚・平衡機能障害、内部障害の方は知的障害、精神障害の方と同様に軽度の認定が出てしまい、上述の問題が出てくる傾向が見られます（要支援の判定が出てしまい病院受診の付き添いで、介護保険のヘルパーが使えなくなってしまうため、障害福祉サービスの申請を改めてするケースも多く見られます）。

また、介護保険の分野でも、支援の視点として「参加」というものが重視されるようになってきましたが、サービスの段階では、障害福祉サービスに比べて、まだまだ不十分な状況といえます（外出支援のサービス等）。

まとめ

◎ライフステージを通じた支援システムが必要

現在は介護保険と障害福祉サービス双方を組み合わせることで、これまで受けてきたサービスに近い状態を保つこととなりますが、そうした複雑な仕組みの中では、利用者や家族にとっては大変な混乱も生じます。サービスが途切れることなく、継続的にサポートを受ける相談支援センターが必要です。

また今、障害者自立支援法の中で使われている障害程度区分認定システムは、新しくICF（国際生活機能分類）の考え方を導入した新認定システムに変わってゆくことが予想されます。障害者の特徴をふまえた支援度によりサービスが提供されるべきです。

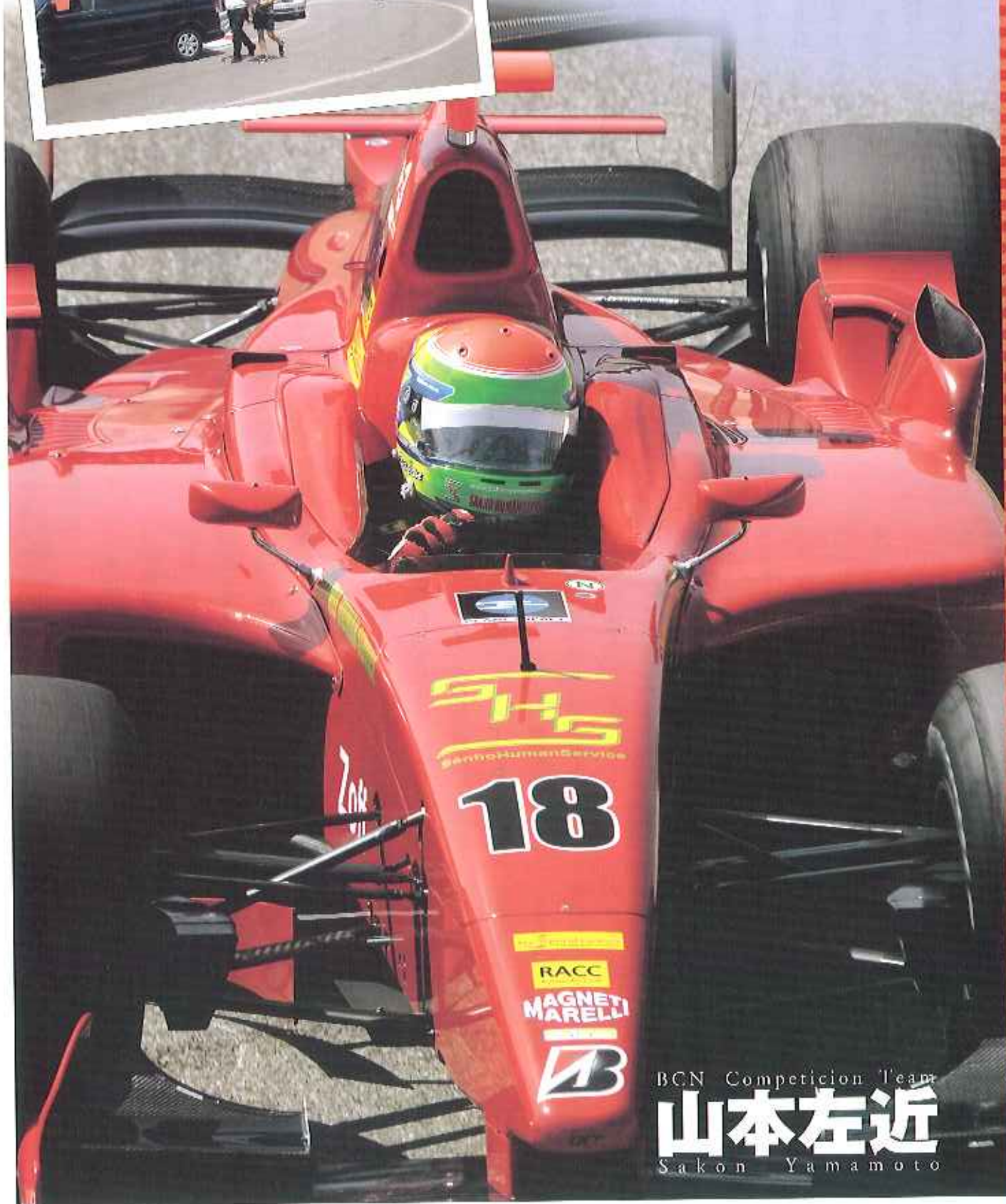
（安形・江川・松井）



左近のチャレンジ
Challenge of Sakon



レーサー憧れの モナコGP



BCN Competition Team

山本左近

Sakon Yamamoto

● Photo/IMAHARA Taro (TIPP)



国上面積が日本の皇居の2倍程度という、世界で2番目の小国モナコ。そのモナコの市街地を利用してのモンテカルロサーキットでGP2シリーズ第3戦が5月24日・26日の日程で開催された。

左近選手も自身のブログでコメントしているように、普段のサーキットとは違い、市街地を利用した初めてのサーキットを走るためか、フリー走行、予選とセットアップがなかなか上手くいかなかったようである。

モナコGPは、観戦する立場ではとても楽しみの多いレースであるが、レーサーにとつては、実際に攻略が難しく、道幅も狭く追い抜きもしにくいいため、完走することさえ難しい。そんな難攻不落なレースのため、F1でモナコGPを3回以上優勝したドライバーには「モナコ・マイスター」といった名譽ある称号が与えられ、大変やりが

いのあるレースともいえる。

そうした、流レーサーにとつても難しいサーキットでの決勝レースに挑んだ左近選手は、車のパフォーマンスが難しい状況でも本当にブツシユし続けることができ、不運にもモナコの洗礼を受けリタイヤをする直前までは、トップタイムと同等のラップタイムが刻め、手ごたえも掴んだようであった。

レース後のコメントでは「今回は結果には繋がりませんでした、また次回モナコに帰ってきた時のための良い準備ができました。もちろん、来年は、あの面白いサーキットをF1で走りたいと思つてます。」といち早く気持ちを切り替え、いつものポジティブなコメントを聞くことができた。今まで幾多の困難を乗り越え夢を実現してきた左近選手。再びF1にステップアップし、必ずモナコのコースを走る姿を見せてくれるに違いない。今から来年が楽しみである。

施設長直筆の書で 季節感を



ジューゲム施設長・金井芳之

梅雨入り宣言が出された直後から皮肉なことに真夏並の暑さ到来と好天気続き。今年はどうやら空梅雨で猛暑のようだ。毎年6月に入ると此処野依の台地には夜になると雨蛙の大合唱が始まる。しかし、今年は何処か違う。確かに雨蛙の声はするもの、なんとも寂しいのだ。最近の地球温暖化で生物系にも異変が続出、とりわけ蛙などの両生類に本来居てはならないカビ(真菌)が棲息していることが報告された。これは蛙にとっても極めて重篤で死亡率も高いという。日本では梅雨時の稲が育つ時に、蛙が害虫駆除に二役買っているのだ。カビの棲息で雨蛙が減ると一大事。まさか此処の雨蛙がそうではないと思うが、蛙の元の元無さに、一抹の不安を感じてしまう。

雨蛙
今宵は鳴かす
寂しがりや



さわらび日記

5月19日・5月16日・6月16日

- 6月16日 ■福祉村病院・ジューゲム 第一病棟家族会 福祉村交通安全教室(理事長出席) 協議会(理事長出席)
- 17日 朝霞交歓会(理事長出席)
- 18日 名古屋市緑保研所手健健康教室にて伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
- 19日 日影村土堂公園セミナー(名古屋山にて伊和弘之副院長が「認知症高齢者の身体状態把握の仕方とケア」について講演)
- 22日 社会福祉法人さわらび会理事会(理事長出席)
- 23日 シューゲム家族会 西崎山医師会主催認知症に関する講演会にて伊和弘之副院長が「アルツハイマー病認知症の方を在宅で介護している家族へのワンポイントアドバイス」について講演
- 24日 三田市社会福祉協議会主催ケアアップ1カ一定例研修会にて伊和弘之副院長が「認知症の介護」について講演
- 25日 さわらび大学「利用者の共感的理解と傾聴」吉原引直田和歌雄教授 豊橋山社会福祉協議会主催介護者教室にて伊和弘之副院長が「認知症の介護」について講演
- 29日 インド福祉村理事長(理事長出席)
- 30日 認知症介護協議会(理事長出席)にて伊和弘之副院長が認知症ケアについて講演
- 6月1日 介護協会の会、理事長出席
- 2日 ソフトボール大会(理事長出席) 認知症介護セミナー(理事長出席) 伊和弘之副院長が「認知症高齢者の身体状態把握の仕方とケア」について講演
- 6日 名古屋山にて伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
- 7日 平成18・19年度社会福祉協議会指導員研修会・医療安全研修会(ライフボート)に理事長出席
- 8日 施設長等協議会(理事長出席)
- 14日 さわらび大学1日で見える認知症(長方医学研究所講師出席) 尾張港市社会福祉協議会主催ヘルパー
- 5月16日 ■さわらび荘 介護予防教室(松下、石川、つづじが丘地域福祉センター) グループホーム地域高員交歓会(村田 出席)
- 17日 福祉OC研修会(村上、名古屋)
- 22日 牛川小学校訪問
- 23日 愛介連ケアマネ部会(白井、名古屋)
- 25日 認知症サポーター養成講座(名古屋市、市役所)
- 30日 県グループホーム連絡協議会役員会(松原、名古屋)
- 6月1日 認知症予防教室(松下、石川、七喜地区市役所)
- 牛川小学校訪問(松原)
- 3日 牛川小学校訪問
- 6日 牛川小学校訪問
- 7日 高成西園児童学
- 8日 職安求人説明会(上井、ライフボート)
- 11日 健康診断(22日)
- 12日 牛川小学校訪問
- 13日 山原福祉専門学校教育指導者協議会(藤原、田原)
- 5月17日 ■第二さわらび荘・カサデローザ 認知症予防教室(名古屋、山本)
- 18日 福祉OC研修会(名古屋)
- 21日 全国老健協議会研修会(全国介護政治学)
- 23日 家族介護者会(東京、山本)
- 29日 福祉村理事会、認知症民間社会福祉協議会共同研修会(名古屋、山本)
- 31日 豊橋山介護保険事業推進委員会(藤原、山本)
- 6月4日 京老協第一回女性委員会(名古屋、山本)
- 6日 福祉タミーミールケア研究会(東京、山本)
- 7日 全国老健協議会女性委員会(東京、山本)
- 9日 認定者会(市役所、長坂)
- 12日 バスハイイン(ケアハウス)
- 14日 なかそ担任人等1回後援会打合せ(福祉サービス2階、山本)
- ケルマネ専門研修(名古屋、長坂)15日

定例会にて伊和弘之副院長が「認知症の方に対するホームヘルパーとしてのサービスのあり方」について講演

バイオリン生演奏で なごみの時間



福祉村病院では、入院中の皆さんに少しでも楽しい時間を過ごしていただこうと、様々なレクリエーションを行っています。1病棟1階では、定期的に担当医の小橋修院長が各病室でバイオリンの生演奏を行っています。小橋院長はバイオリン歴40年以上で、腕前もかなりのものです。親しみのあるやさしい曲をと、「荒城の月」「夕焼けごやけ」「さくらさくら」などの日本の名曲やクラシックなど、様々なジャンルの曲を弾いてくださいます。患者さんから曲をリクエストされ、即興演奏をされることもあります。

病棟全体に美しいバイオリンの音が響き、患者さん達も心やすらぐひとときとなっています。



医療法人さわらび会 創立45周年記念講演会

医療法人さわらび会は、今年の8月15日で創立45周年を迎えます。45周年の記念式典として、2名の講師の先生方をお迎えし、45周年記念講演会を開催いたします。

特定医療法人共和会 共和病院
老年科部長 河野 和彦 先生
演題「わが国の認知症診療と私の歩み」

国立長寿医療センター病院
包括診療部長 遠藤 英俊 先生
演題「認知症の医療とケアー過去・現在・未来」



日時

平成19年8月18日(土) 14時~17時

場所

ホテルアソシア豊橋(豊橋市花田町西宿)

- | | | |
|---|---|--|
| <p>6月10日 ■あかね荘
○よわり直橋え(湖西)
調理教室
白立支院法対講特別委員会
地域支援会
福祉協会特別委員会
福生守研究会
名古屋市青会
名古屋ノースアイバルに参加
福祉協会 東海地区会議(徳島県 名古屋)</p> <p>6月11日 ■若葉荘
自治会福祉村公債発行
説明会
喫茶ながよし
特委みよしの事前所式出席(講師長 谷川(同))
宗教講話
各病別会談
生活支援会
住友協賛「花の園」七喜会後
員会
全聖協東海北陸後援会出席(敬告羽鳥 藤野正一、若葉会地域活動口書藤野 純社理事 藤野正一)</p> <p>6月12日 ■各施設共通
交通安全教室
施設安全研修
朝倉信教交換会
さわらび会在宅医療福祉部長(若葉正 藤村千ヤン)バン隊(東陵中学校) 福祉村法人さわらび会理事会(豊橋 グランドホテル)
さわらび会理事若田忠徳
中務福祉専門学校より施設見学
施設長会議
若葉士会議
福祉村グリーン健康</p> | <p>6月13日 ■若葉荘
自治会福祉村公債発行
説明会
喫茶ながよし
特委みよしの事前所式出席(講師長 谷川(同))
宗教講話
各病別会談
生活支援会
住友協賛「花の園」七喜会後
員会
全聖協東海北陸後援会出席(敬告羽鳥 藤野正一、若葉会地域活動口書藤野 純社理事 藤野正一)</p> <p>6月14日 ■しろがね
TFM合唱団による音楽教室
認知社協心身小ムロ研究会若葉委員会 及び個人出席
障害基礎講座参加(金田・岡田)
豊橋山部書福祉サービステ長会出席
TFM合唱団による音楽教室
さなえ会おやつの本社</p> | <p>6月15日 ■珠藻荘
自治会
支援センター主催「在宅障害者のための料理教室(八刺)地域福祉センター」 口立支援協議会相談支援専門チーム(田中 松井 市役所)
藤野福祉保健専門学校より施設見学
善美フェスティバルに参加
障害福祉サービステ長会(施設長 市役所)
自治会役員会
ノロ野球部招待
高師台中学校就業体験事前説明会にて 講師(田中)
市内消防取り扱訓練
口立会
職員研修会「臨下について」
全国身体障害者協議施設職員研修会 (施設長・敬告・人河内・金沢市)</p> <p>6月16日 ■明日香
南高校と海岸酒場
フェリス教養
語りへの会
F1Dチャンピオンシップ横浜(施設 辰)
グループホーム会議
もくしりまつりして販売
福祉協会心身ホーム部会(施設長 名古原)
バスハイク
家族会懇親会
おいでん祭りにて販売(27日)
田原福祉実習開始(5月11日)
福祉協会東海地区会(施設長 名古屋)
東三セルブ施設長会議(施設長)
福祉協会後援(施設長 名古屋)
出席報告会(敬告)にて販売
山川養護学校実習受け入れ(15日)
口立会
東三セルブ富業泊(敬告) (山本)</p> |
|---|---|--|



「お遍路さん」

～四国八十八ヶ所めぐり～

第13回

西日本最長のロープウェイ



福祉村病院 副院長
伊莉弘之

第二十番鶴林寺から第二十一番舎心山（しゃしんざん）太龍寺（たいりゅうじ）までの距離は七キロ。標高六百メートルの山頂近くにある太龍寺は、平成四年に太龍寺ロープウェイが開通した。西日本最長で所要時間は十分。いつきに山頂へ。十九歳の弘法大師は太龍寺近くの舎心ヶ嶽で百日間の山岳修行をした。この寺は「西の高野山」として信仰を集めている。境内には堂も多く、求聞持堂（ぐもんじどう）では現在も、虚空蔵（こくうざう）菩薩の真言（のうほうあきやしゃきやらばや おんありきやまりほり そわか）を一日一万遍から二万遍唱えて五十日間堂内にこもる



荒行、虚空蔵求聞持法が行なわれている。太龍寺の境内から六百メートル離れた山上に弘法大師の座像がある。「本当にあそこに座ったのかなあ」と中の娘。写真の中の弘法大師座像が見つかりましたか？



身体障害者療養施設珠藻荘に人所されている加藤悦代さんは、四肢のマヒがあり、言葉が話すことも困難な重度の身体障害をお持ちですが、口ごろから補助具を活用してインターネットや携帯電話を使いこなし、通信教育で勉強をするなど、何事にも前向きに取り組む努力家です。今回の旅行は、加藤さん自身がインターネットや本を使って計画され、旅行会社との打ち合わせも、ほとんどご自分でされました。旅行に一緒に行った友人二人とは、数年前にボランティアとして知り合い、意気投合された仲で、二人は加藤さんの手助けができるように珠藻荘で介護方法を学び、宿泊訓練や職員を交えてのミーティングを重ねていきました。いつしか「障害者とボランティア」という関係は「気の合う友人」という関係になっていきました。こうして築いてきた人間関係こそが加藤さんの宝物だそう。今回の旅行も「ボランティア」ではなく「友人」として旅行に行かれたのです。神戸の街はおしゃれで美味しいものがたくさんあり、街はバリアフリーが進んでいて、二日間とても楽しかったと加藤さんもご友人もニコニコしながら報告してくれました。これからも、素敵な関係を続けていってくださいね！！

（石田）



自分の気持ちをあきらめない!!
友人達と行った神戸の旅
珠藻荘利用者 加藤悦代さんの二泊旅行

さわらび会後援会 寄附ご芳名

・H19・5・15～6・14

- 市内牧野町九〇 伍千円
- 小松ウメ氏
- 新城市南畑七四 壹万円
- 光田屋勝
- 市内大清水町志士見八〇四 壹万円
- 市内小池町三六一 伍千円
- 共利印刷機
- 市内高塚町神田六八 伍千円
- 田中敬明氏
- 市内中岩田三丁目一三 壹千円
- 白井良治氏
- 市内弥生町西豊和九一九 壹万円
- 林昭氏
- 市内笠野三〇 壹万円
- 市内新松商店
- 市内瓜郷町前川五〇一 壹万円
- 鈴木武生氏
- 市内東新町三二四 壹万円
- 藤日医工新和
- 市内間工町五二五 壹万円
- 輔ススケン
- 市内東田町一五四 壹万円
- 新竹田商店
- 市内飯付北二丁目二六 壹万円
- 市内流川器械店
- 市内東藤三丁目一七 壹万円
- 森田由利子氏
- 市内白河町一〇〇 壹万円
- 中部ガス機
- 市内神野塚頭町三 壹万円
- 神野臨海機
- 市内野依町山中一九一四 四千円
- 福祉村病院職員有志
- 匿名希望氏 四千円
- 匿名希望氏 壹万円
- 匿名希望氏 壹万円

現在までにご寄附いただきました金額は
八億零千四百参拾六萬
四千四百参拾四円

インド福祉村協会 寄附ご芳名

・H19・5・15～6・14

- 岐阜県恵那山岡町下手向一七九六 壹万円
- 高瀬健太郎氏
- 岐阜市長森本町一 伍千円
- 若井秀一氏
- 名古屋市中区区富士見台四一 伍千円
- 原 幸喜氏
- 各務原市那加桜町二一九五 伍千円
- 石井尚志氏
- 一宮市大宮二二四一七 伍千円
- 市田禎子氏
- 静岡市駿河区大谷一九〇〇一三三 伍千円
- 池田明雄氏
- 愛知県長久手町五合池三〇七 伍千円
- 田中泰賢氏
- 名古屋市中区藍付通二二二 伍千円
- 三ツ木西太氏
- 春日井市妙慶町三二〇二五 伍千円
- 大野哲夫氏
- 奈良県御所市今住七〇〇一 伍千円
- 米田徳七郎氏 参萬伍千円
- 名古屋市中区新栄一七二二 伍千円
- 東海労働金庫 四子参百円
- 尾張旭市旭台三一五二四 壹万円
- 芝山章子氏
- 豊川市下藤通四一九一 伍千円
- 岡田孝子氏
- 市内前田町一八一七 伍千円
- 羽田徳子氏
- 市内東小田原町一 伍千円
- 横井 裕氏
- 名古屋市中区区赤坂町六一六 伍千円
- 武田尚代氏
- 瀬戸市萩山台二四九 伍千円
- 永田忠男氏
- 名古屋市中区東区社会二一五二 伍千円
- 山崎則子氏
- さいたま市大宮区 伍千円
- 堀の内町一 九六一 伍千円
- 市川雅英氏
- 市内仲ノ町三四一 伍千円
- 山口豊彦氏
- 可児市広見七五五四 伍千円
- 古川 克氏
- 高槻市塚原一四一九 伍千円
- 熊野 正氏
- 浜松市幸四一三七一一 伍千円
- 南忠美子氏

計 参拾壹萬零千参百円

- 豊明市香科町下高根七八 壹万円
- 神谷信明氏
- 名古屋市中区高岡町五二二 伍千円
- 養輪顯眞氏
- 名古屋市中区山花町五〇 伍千円
- 医療法人 生寿会
- 理事長 酒井宏氏

- 市内富士見台一三三三 伍千円
- 杉浦 直氏
- 豊川市萩山町三二七四 伍千円
- 市野依台一丁目六一六 伍千円
- 橋本記子氏
- 横濱市南区中里一四一 伍千円
- 横倉典子氏
- 埼玉県熊谷市桜町一 伍千円
- 萩野東虫子氏
- 春日井市堀ノ内町一〇六七 伍千円
- 土井まつ子氏
- 豊川市古岡一色八一 伍千円
- 武田和敏氏
- 市内浪ノ上町七一 伍千円
- 山本孝之氏
- 浜松市東区有土台四二日 六八八 伍千円
- 田中久子氏
- 名古屋市中区太閤二一九一七 伍千円
- 吉田 晃氏
- 浜松市西ヶ崎町二六七 参千円
- 渡辺美津枝氏
- 浜松市笠井町九七五 参千円
- 中村元美氏
- 岐阜市菅生町四一四一 伍千円
- 和泉順子氏
- 瑞浪市土岐町二〇〇七 伍千円
- 鈴木利江氏
- 埼玉県本庄市本庄二二二 壹万円
- 梅村宣子氏
- 名古屋市中区栄一丁目七二一三 壹万円
- 岡田 保氏
- 岐阜市梅林四 参千円
- 山古敏男氏

募金方法(インド福祉村)
郵便振替・郵便振込 口座番号
〇〇八三〇二一六五〇〇八
インド福祉村協会
〒四八一一一三八まで

夏休み親子福祉体験講座 のご案内

●日時 平成19年8月5日(日)
●場所 福祉村の各施設(野依町)
～プログラム～
●開会式 午前10時から
挨拶 理事長 山本 孝之
講演 「障害を乗り越えて」 珠藻荘副施設長 田中 力
●開会式終了後は、各施設の見学、模擬店、ふれあい体験コーナー、そしてレーシングドライバー山本左近選手のサイン色紙など素敵な景品がもらえるスタンプラリーがあります!!

参加申し込み方法
●対象 豊橋市内にお住まいの小中学生とその家族100組
●7月18日(水)まで、珠藻荘に電話かFAXにてお申し込みください。
珠藻荘 豊橋市野依町字山中19-12
TEL 0532-47-1050 FAX 0532-47-1023

さわらび大学講座案内

☆参加費無料で、どなたでも受講できます

- 7月12日(木)「近代医学に貢献した日本の先駆者
～北里柴三郎を中心に～」
老人保健施設ジューゲム 施設長・東京大学客員研究員 金井 芳之
(現職:日本免疫学会評議員 日本リウマチ学会評議員など)
- 7月26日(木)「ピアカウンセリング」
身体障害者療護施設珠藻荘 副施設長 田中 力

お知らせ 8月のさわらび大学は法人の都合により休講とさせていただきます。

※さわらび大学の開催は、第2・4木曜日の開催です。時間は午後3時～4時。会場は、福祉村病院会議室です。尚、都合により日程及び講座が変更となることもございますのでご了承ください。

●お問い合わせ・受講申し込み
軽費老人ホーム若菜荘
TEL (0532)48 1138 FAX (0532)48-2365

さわらび美術館

心のメッセージ



● 写真:「オランウータンの親子」 瀧名健太(明日香ヘルパー利用者)
絵:上村松岡模写「初夏の夕」加筆部分あり 古瀬てつ(カリデローザ)

みんなの力でみんなの幸せ

2007年7月1日発行 早蕨 第411号
(昭和32年2月21日第一種郵便物認可)

充実した医療と福祉

- 特別養護老人ホーム さわらび荘 ☎(0532)54-3501
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘 ☎(0532)48-1032
- ケアハウスカサデ ローザ ☎(0532)37-1209
- 経費老人ホーム 若葉荘 ☎(0532)48-1138
- 身体障害者施設施設 珠蔭荘 ☎(0532)47-1050
- 知的障害者更生施設 あか桜荘 ☎(0532)48-2825
- 福祉村病院 ☎(0532)46-7511
- 知的障害者授産施設 明日香 ☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所しるがね ☎(0532)48-1032
- 福祉コンビニ(東山町) ☎(0532)69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生 ☎(0532)38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原 ☎(0531)24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム ☎(0532)46-7501



社会福祉法人 さわらび会

編集責任者: 武田和敏 印刷: 共和印刷 定価: 100円

■表紙作品: 「国府夏まつり」(豊川市)

編集後記

障害者を抱える親御さんの多くは、「この子より一分一秒でもいいから後に逝きたい」と、子どもを残して先に逝くことで、残された兄弟や周りの人達に、迷惑を掛ける不安や罪悪感のようなものを、少なからず抱いているようです。いろいろな理由や事情があるのですが、福祉に携わる者としては、この話を聞くたびに心が痛み悩みます。無力とまでは言いませんが、みんなを支えることがまだまだ実現していない現実がそこにはあります。でもみんなの幸せのために少しでもいいから前に進みたいと思います。

(武田)